

都難言協会報

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

ことばを育むかわりとは

（指導者として大切にしたいこと）

言語聴覚士 中川 信子 先生



全難言協主催の「はじめのいっぽ」で毎年お話しするエピソードを紹介します。

私は長く東京都調布市で乳幼児健診事後の「ことばの相談」を担当していました。相談に来られるのは2才前から3歳4歳くらいのお子さんです。

ある時、3歳半のお嬢さんが来室されました。お母さんの心配は「サ行が言えない」ということでした。遊びながら、育ちやコミュニケーションのようすを拝見し「お嬢さんは、確かにサ行がまだ言えていません。でも90%の子がサ行を言えるのは5歳半から6歳といわれています。のびのびお話しできていてとてもいい状態ですから、

お話しするのがキライにならないよう、はつきりしない発音でも、受け止めて、正しい発音で返してあげて下さいな。大きくなるにつれて言えるようになるお子さんも多いです。5歳半になってもまだ心配だったらもう一度この『ことばの相談』に申し込まれるか、または、子ども発達センターにSTがいるので相談してご覧になるといいと思います」とお伝えしました。お母さんはほつとされたようでした。

その後、お嬢ちゃんがおもちゃで遊んでいる間、お母さんといういろお話ししていたら「実は、私、小学校のころ、サ行が言えなくて、ことばの教室に通っていたんで

◆主な内容◆

一面 ことばを育むかわりとは
二面 ところを育てよう

在籍学級でのお悩み解決方法

三面 第3回・9回専門研究会

四回 研究発表について 他

す」と話して下さいました。「へえ、ことばの教室でどんなことしたんですか？」とお聞きすると、うつむきがちで内気そうなお母さんがその瞬間顔をあげ、急にぱあーっと光が差したような表情で「トランポリンで遊びました！」つてうれしそうに話して下さいました。

お母さんご自身のサ行音は歪みもなくきれいでしたから、ことばの教室ではトランポリンを跳ぶだけではなくて、ちゃんと発音の練習もして下さったにちがいありません。

でも、お母さんにとって「ことばの教室」は、思い出すだけでうれしくなる楽しい場所として記憶されていたのです。ステキです。

発音に限らず、ことばを育むかわりにおいて指導者が大切にしたいことは、このお母さんの話に尽くされていると私は思います。

お子さんの現状を正確に見たて

る評価・アセスメント。必要な指導方針を立てて実行する。振り返って修正し、さらに実行する。このループのくり返し。これは当然の職務。

でも、練習の成果が上がることでだけでなく、お子さんの中に歓迎され、いっしょに楽しんでもらったと記憶に残るのが、本当にすぐれた指導なのだと思います。

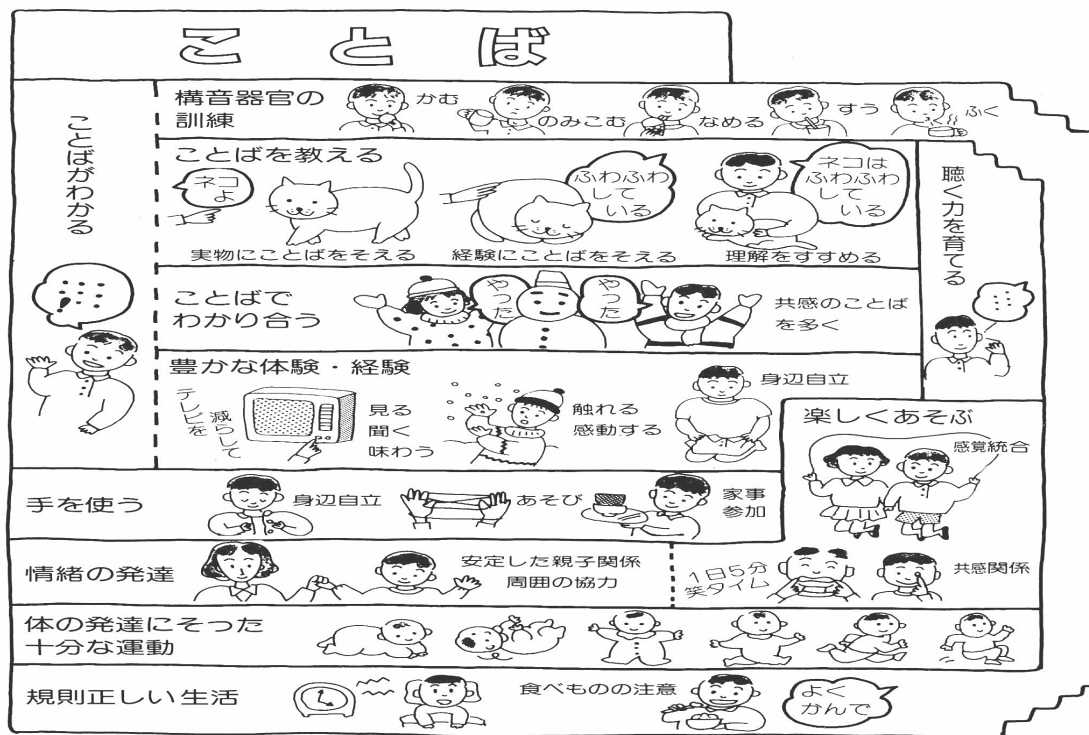
もう一つ。調布で私たち幼児担当の言語聴覚士は建物の制約から「きこえ・ことばの教室」の先生方と職員室を共有していました。先生方は、お子さんが来室すると、たとえやりかけの仕事があつても即座に「いらつしやい」と立ち上がり、子どもと一緒に部屋の方に向かつて行かれました。教材もその部屋にすでに準備してありました。

一方、私たちはつい「ちょっと待って」とか「先にお部屋に行つて」と言いがちでした。先生方は「子どもを歓迎する」を、行動で示しておられたのでした。

高度な専門性は必要ですが、人として子どもとその親をリスペクトする、大切にすること、それが指導者に一番求められていることだと自戒を込めて思います。

こころを育てよう(ことばのビル)

ビルを建てる時、最初に最上階から立てず、土台をしっかり固めたうえで、1階・2階と建てていきます。ことばもビルと同じように、土台となる「体づくり」「こころの育み」がとても大切になります。子どもたちのことばやこころを育むには、毎日の暮らしの中での言語環境や大人とのかかわりを増やしていきましょう。



中川信子 (1998) . 健診とことばの相談 ぶどう社

在籍学級でのお悩み解決方法(言語発達・難聴)

ことばの力や読み書きの力を のばしているCくん

作文を書くとき、漢字は思い出せないし、どうやって文章をまとめたらいいいのかわからなくてなかなか進まない・・・。



漢字の早見表を用意してもらい、どうしても思い出せないときは見てもいいようにしてもらったよ。事前にワークシートで書く内容を整理したら取り組めるようになったよ！



難聴があるDさん

補聴器をしていても、机や椅子を動かす音で先生の声がききとりにくいことがある・・・。



机の脚にテニスボールをつけてもらって、先生の声がききとりやすくなった。それに大事なポイントは、黒板に書いてもらうようにしたら、わかりやすくなったよ！



※ここで紹介している例は、解決方法の一部です。通級児童・生徒の気持ちに耳を傾け、児童・生徒がどうしたいか、ともに支援策を考えていただけると嬉しいです。通級学級担任も在籍校と連携を取り合い、児童・生徒の希望に沿った支援を一緒に考えていきます。何かありましたら、遠慮なくご相談ください。

「学童期の吃音指導について」

国立リハビリテーションセンター病院 言語聴覚士 角田 航平 先生

【臨床の考え方】

現在行われている吃音臨床の要素としては、①心理教育②流暢性形成(促進)③保護者へのカウンセリング④心理面への対応⑤吃音変容、があげられます。

【流暢性形成法】

流暢な発話を臨床場面で確立・強化し、徐々に日常会話に近づけていく方法です。流暢な発話を得るための方法としては、①発話パターンを変える、②発話長・複雑さを変えることの2つがあります。流暢に話せる経験は、それを汎化させることだけでなく、流暢に話している状態を自分で確認したり、流暢に話せるという自信につなげることも目的とします。また、流暢に話せる経験を通して、吃音のある児童は流暢に話せない人という側面だけでなく、流暢に話せる一面もあるということを理解してもらうということも重要であると考えます。

【不安への対応】

不安は自分の安心・安全を守るために必要であることを説明し、そのため、無理になくそうとする必要はないことを伝えます。不安に反論してみたり、考える時間を減らしたりすることで、無理なく共存できる方法を勉強していくことが必要であると理解させます。不安と上手に共存していくためには、不安でもチャレンジしてみたり、不安に対処したり、解決する方法を考えることが必要だと考えています。

【合理的配慮】

吃音領域においても、合理的配慮の必要性が指摘されるようになりました。現在行われている合理的配慮は吃音のある児童が安心して過ごすために一定の効果があると考えます。しかし、病院にいらつしやる症例の中には、必要な配慮が得られていないと思われる方が一定数いらつしやいます。通級指導教室の先生方は、学校と吃音について理解がある非常に貴重な存在であると思います。吃音のある児童が「そのままで過ごせる」と思ってもらえるような配慮が得られるよう、ぜひ先生方にお力を発揮していただけるとありがたく存じます。

(文責 寺中峻平)

「聴覚障害児の就労・就労継続に必要な力」

「ことばの力と、セルフアドボカシーを身に付けるために」

株式会社デフサポ 代表取締役 牧野 友香子 先生

若手の聴覚障害者の就労の機会は増えましたが、定着がうまくいかず転職する人が多い、という現状があります。聴覚障害者にとって就労は大変なことです。

企業で働く聴覚障害者の多くが口話(読話・発話)を中心に活用しています。就労後に突き当たるのはコミュニケーションの問題です。例えば、会議についていけない、雑談が分からない、周囲の情報が音として入らない、当たり前に学ぶマナーが身に付かない、単純作業やコミュニケーションの少ない業務ばかりアサインされる、などです。しかし、これらのことはコミュニケーションの取り方次第で解決できることも多いのです。

ソニーで人事担当をしていたとき、採用されるのは「自分のことを理解して自分の言葉で言える人」です。そのためには、「セルフアドボカシー」と「ことばの力」を早い時期から身に付けておくようにしたいです。

セルフアドボカシーとは自分自身を理解し、周囲との違いを客観的に

比較し、状況の改善を適切に求める問題解決力です。例えば、授業の席はどこがいいのか? プールのときはどうすればいいのか? 自分で理解し、言葉で理由もしっかり周囲に伝える力が必要です。親が先に説明してしまい、初めから座席などの配慮をしてもらうと、自分で何故その席がよいのか説明できなくなります。また、初めから恵まれた環境でなく、あえて聞きづらい分なりにくい環境を経験することも大切です。

親は、先生にどうやって説明したかを話して聞かせてあげてください。次の機会には、親が話したように話すことができます。ことばはまず、インプットがあつてアウトプットの力が育つのです。

(文責 佐久間陽子)



◇ 学級紹介 ◇

国立市立国立第七小学校 ことばの教室

国立市は小学校 8 校、中学校 3 校の小さな市です。現在、七小に国立市唯一の「ことばの教室」を設置しています。しばらく 1 学級でしたが、今年度には 3 学級 4 人担任までになりました。そして来年度、「きこえの教室」も開級します！（昭和 49～平成 4 年度まであった難聴学級、30 年ぶりに復級します！）

小さい市だからこそ、連携がとてもしやすく、各校、特別支援教室の先生方、教育委員会の皆様と直接顔を合わせ、また直通電話で、すぐに情報共有や相談がしやすい良さがあります。

また、通級にかかわらず、通常の学級や固定級の児童の「相談」も行い、保護者・担任の先生との連携、支援も行っています。保護者の送迎が難しい場合でも、補助が出て、「タクシ一通級」ができる体制があります。

通級にスムーズに通える環境が整っており、児童も保護者も安心して通っています。

最寄り駅は JR 南武線谷保駅、徒歩 6 分です。中央線国立駅からもバスで来られます。



◆ブロック研究発表について◆

城南ブロック

・テーマ

「ことばのやり取りに弱さのある児童への指導」

（言語の 4 側面からのアプローチ）

・講師

早稲田大学教職大学院

非常勤講師

長岡 恵理 先生

・日時

令和四年二月八日（火）

午後二時から四時半

* Zoom によるオンライン

開催

* 資料は事前にホームページ

にアップします。

中学ブロック

・テーマ

「難聴教育の理解と専門性の向上について」

・日時

令和四年二月二十二日から

三月八日まで

* 紙面発表

* ホームページに掲載

事務局より

今年度の事務局では、感染症対応の経験を生かし、オンライン会議システム等の活用を充実させることで、他団体との連携、そして都難言協の活動を推進しております。

都難言協は各区市の分担金や東京都教職員研修センターの研究奨励費と、会員の方々の協力によって支えられています。教員の難聴・言語障害教育の専門性を高めることにより、「通級指導学級」制度の維持・発展を目指しております。変化の著しい中、様々な課題がありますが、来年度も御協力をよろしく願います。

―編集後記―

今年度も引き続き、新型コロナウイルス対策を継続していきます。

ご多用の折、原稿をお寄せいただいた皆様に、厚くお礼申し上げます。

都難言協会報

代表者（会長）木下 雅雄

責任者（広報委員長）野崎 信行

発行日 令和四年一月四日

発行数 五七五〇部

印刷 有限会社 正陽印刷